

## 自律運航めざす

— BEMACの果たす役割は。

「大前提として自律運航を実現する。欧州に負けるわけにはいかない。この実現には自律運航の技術開発だけではなく、船員育成や業務改革のようなコストと時間がかかる課題についても、AI（人工知能）技術などのデジタル化によって船舶管理の高度化の壁を一気に超えることが重要。これを可能にするアプリケーションソフトウェア、プラットフォームプロバイダー、クラウドプラットフォームプロバイダーとしての役割を果たしていきたい」

「また、船舶の電力制御、情報管理を担うメーカーとして、船舶のデジタル統合化というシステムインテグレーターの役割を模索していきたい。そのためには業界全体のデジタル化への進展が不可欠だが、幸い（国際海事展の）パリシップやショージャパンが開催されることにデジタルイゼーションに向けた機運が高まっている。データ収集に

# MariTech × ShipDC

海事未来図

小田雅人BEMAC社長

(1面から続く)

価値を見いだすオーナー（船主）も出てきている」

## データラボ手応え

「昨年、開発拠点として東京データラボを開設した。

「データラボは開発部門の上流として、全体の構想をまとめるところ。ビジネスモデル開発や技術の全体構想、基本設計まで行う。今は5人くら

いが、戦力としては倍以上のイメージがある。とにかく、一人で普通のエンジニアの3倍、4倍こなせる発想力と企画力を持つような人を集めないといけない」

「開設してから間もなく1年。それなりの手応えがある。技術開発では他社との連携も進めているが、船のことを知らないとうとうしようもない」



「欧州に負けるわけにはいかない」

「ハードやソフト開発が経営や新船型の開発に活用されるようになってくる。陸上からの運航や荷役管理が可能になり、さらなる省人化で自律運航へと進んでいく」

「一方で海上ブロードバンドの進展により、ポータルサイト上に業界全体を取り巻くプラットフォームが確立し、新たなプレーヤーを巻き込んで双方の船舶ビジネスが生まれていくだろう」

「新しいビジネスはしんどいと思うが、夢がある。一緒に参加してもらえたら大きなことができる。連携、連携でいかな」といけな

いだが、戦力としては倍以上のイメージがある。とにかく、一人で普通のエンジニアの3倍、4倍こなせる発想力と企画力を持つような人を集めないといけない」

## 夢あるビジネス

「今後、デジタル化で海事産業はどのように進んでいくのか。

「個別に制御されていた機器がシステム統合さ

れ、機能別にマネジメンタされ、船舶情報がオンボードで分析、検証されていく。船上から大量に収集されたビッグデータが経営や新船型の開発に活用されるようになってくる。陸上からの運航や荷役管理が可能になり、さらなる省人化で自律運航へと進んでいく」

(週一回掲載)